

# 携帯端末使い地元食材探し

野田小  
児童



野田漁港の養殖施設で、タブレット端末を使いながらホタテについて学ぶ小学生たち

久慈市のNPO法人・北いわて未来ラボ（中平均理事長）は13日、野田村の子どもたちが地元食材の魅力を再認識するイベント「のだもんくうまい食いもんさがすのだ」を開催した。村立野田小学校の3、4年生13人が参加してホタテやマブドウ、南部福来豚などの食材探しをしながら郷土について学んだ。

イベントは子どもたちに東日本大震災の復興について、ヒントを

考えてもうおうと企画され、NTTドコモ（本社東京都）の震災復興活動に対する支援助成金を活用した。

子どもたちはタブレット型パソコンを持参して村生涯学習センターを出発し、探検の途中で発信される“指令”の下、村内4カ所を探検。最初に野田漁港を訪れた4年松葉良太君（二〇〇〇年男女4人のチークムは、村漁協の担当者から野田ホタテに関する説明を聞きながら、食材の写真撮影や画像データの送信などに励んでいた。

まとめの成果発表会で中平理事長は「大人になつても野田村のよいものを自慢できるようになつてほしい」とあります。最後に指令完了記念のバッジをもらった4年小野寺優花さん（二〇〇〇年）は「ホタテの養殖場や野田塩の工場を見られて楽しかった」と話していた。

（水野大輔）



野田村特産のホタテガイについて説明を受ける子どもたち

## 地域の宝 魅力を実感 野田 小学生が食材探し

沿岸

地域の話題・情報お寄せください

八戸支社 0178(43)1010  
洋野支局 0194(69)1060  
久慈支局 0194(53)3030  
宮古支局 0193(62)1771  
釜石支局 0193(23)5107  
大船渡、陸前高田  
合同支局 0192(27)3070

野田村の小学生による地元の食材探し体験イベント「のだもんくうまい食いもんさがすのだ」(NPO法人北いわて未来ラボ主催)は13日、同村で行われた。

タブレット型端末を使ってゲーム感覚で村内を回り、地域の特産品探しを通じて魅力を発見した。

小学3年生から6年生の13人が参加。3グループに分かれ、タブレット型端末にメールで送信される「指令」に沿って海・山・里の食材を探した。

野田漁港ではホタテ

ガイの蓄養施設を見学。野田養殖組合の安藤正樹理事(39)から野田のホタテについて「貝が小さくても味が濃く、荒波で育つから身ががっしりしている」と説明を受けた。

野田小3年の赤坂心君は「野田のいろんな食材を探せてうれしかった。またやりたいな」と満足げな顔を見せた。

イベントはNTTドコモの東北復興支援助成金を活用して行われた。イベントはNTTドコモの東北復興支援助成金を活用して行われた。